

## 75年史沿革

年号(西暦)	月	漕艇関係特記事項
昭和20年(1945)	8月	太平洋戦争終結、空襲により艇・艇庫の多くを焼失
	11月	戦後初のレースを向島で開催(M8+の参加は2校のみ)
昭和21年(1946)	10月	関東インターカレッジ復活開催(東京・隅田川・水神～言問橋)
	11月	第1回国民体育大会漕艇競技開催(京都府・瀬田川)
昭和22年(1947)	5月	早稲田大・慶應義塾大対校戦(早慶戦)復活開催(向島)
	6月	第1回向島レガッタ開催(お花見レガッタ・都民レガッタの前身)
	8月	第2回国民体育大会に東京都代表(日本鉱業、学習院中等部)が参加(石川県・瀬田川)
	9月	全日本選手権大会開催(東京・向島)(旧制度による)
昭和23年(1948)	1月	17日 日本オアズ・マン倶楽部創立
	2月	12日 東京都漕艇協会誕生(関東漕艇連盟総会で承認) 初代会長に山田文雄氏、理事長に東田正信氏が就任
	6月	関東高専レガッタ復活(向島)(関東漕艇連盟主催であるが実質的には東漕主催)(1回のみで中止)
昭和24年(1949)	5月	関東学生漕艇リーグ戦開催(戸田)(参加校:慶A,B、日、早、東、立)(1回のみで中止)
	6月	第1回戸田レガッタ開催(戸田)(昭和26年から埼玉県漕に移管)
	9月	全日本選手権競漕大会がスタート(戸田)(戦前から通算第27回) 第4回国民体育大会を東京都で開催(漕艇競技は戸田)、全面的に支援
昭和25年(1950)	5月	第19回早慶戦(6000m、前年は2000m)が隅田川で長距離レースを採用実施
昭和26年(1951)	4月	第1回お花見レガッタ開催(向島・600m)
	6月	第3回東商戦(4マイル1/4、前年は2マイル)が隅田川で長距離レースを実施
	7月	第1回読売レガッタ開催(戸田)
	8月	第1回関東インターハイ・レガッタ開催(戸田・1000m)
	9月	第1回社会人・実業団選手権開催(滋賀県瀬田川・1000m)(平成10年から全日本社会人選手権に名称変更)
昭和27年(1952)	7月	第15回ヘルシンキ・オリンピック大会開催(M4+)
	11月	第1回関東ジュニアインカレ開催(戸田)(昭和35年から日漕主催の全日本ジュニアに移管)
昭和28年(1953)	1月	秩父宮殿下の葬儀に東漕所属各大学がオールを捧持して参列
	8月	第1回朝日招待レガッタ開催(向島)(東漕・朝日新聞共催)
	8月	第1回全国高等学校選手権漕艇競技(インターハイ)開催(滋賀県瀬田川) 第1回関東高等学校(新制)新人戦開催(戸田) 会務運営に当番校制を採用、理事長に当番校OB、副理事長兼審判長に次年度当番校OBが就任することになり29年度から実施
昭和29年(1954)	3月	戸田コースの競艇使用論議に絶対反対の声明を発表
	6月	第1回日本大・立教大・明治大対校戦開催(向島)
	9月	イギリス・ケンブリッジ大参加の全日本選手権を全面的に支援
昭和30年(1955)	5月	第1回東経大・中央大対校戦開催(向島・平成3年から法政大・日体大が加盟、現グリーンレガッタ)
	9月	神奈川県相模湖で開催された第10回国民体育大会の運営に協力 国民体育大会一般男子フィックスで、旭電化が東京都代表として初優勝
	11月	第1回関東女子インカレ(NF)開催(戸田)
昭和31年(1956)	1月	日漕の要請に応え、各大学OB・学生がオリンピック募金に協力
	11月	第16回メルボルン・オリンピック大会開催(M8+)
昭和32年(1957)	10月	第1回相模湖レガッタ開催(神奈川県・相模湖)(神奈川県漕主催)
昭和33年(1958)	5月	第1回共立女子大・東大女子定期戦開催(向島)(第11回まで)

	6月	第1回東外大・東工大・商船大対校戦開催（戸田・昭和41年から筑波大・防衛大が加盟、現五大学レガッタ）
昭和34年（1959）	5月	IOC総会（ミュンヘン）で1964年オリンピック開催地が東京に決定
	8月	イギリス・オックスフォード大参加の全日本選手権競漕大会を全面的に支援
	9月	第14回国民体育大会が東京都で開催（漕艇は埼玉県で開催、運営に協力） 東京都漕艇協会規約を制定（昭和34年1月27日制定）
昭和35年（1960）	8月	第17回ローマ・オリンピック大会開催（M8+、M4+）
	9月	第15回国民体育大会漕艇競技で、東京都が初の総合優勝、天皇杯獲得（熊本県・荒瀬ダム）
	11月	第1回全日本ジュニア選手権競漕大会開催（昭和45年から全日本新人選手権大会に名称変更）
昭和36年（1961）	6月	「日漕強化ニュース」第1号発行（40年5月・第46号まで）
	7月	第1回オックスフォード盾レガッタ開催（戸田・2000m）
	9月	第16回国民体育大会、一般MKFで旭電化が優勝（秋田県・秋田運河） 東京オリンピックのボート会場が戸田に決定
昭和37年（1962）	6月	東漕要覧（1961～62）を発行 早慶、東商の対校戦が向島開催を中断、戸田に移行（水質悪化のため）
	9月	第17回国民体育大会、一般M1×で下河辺大三が優勝（岡山県・児島湖）
昭和38年（1963）	9月	戸田コースの改修工事完成、使用規定・航行規則施行（全長2400m 幅90m 深さ2.5m）
昭和39年（1964）	9月	日本漕艇協会が社団法人に組織変更 第19回国民体育大会、一般WKFで明治生命が優勝、一般M1×で桜井利一が優勝（新潟県・加茂湖）
	10月	11日～15日 第18回東京オリンピック大会開催、競技運営に全面的協力 学習院大・成蹊大・成城大対校戦開催（戸田）
昭和40年（1965）	6月	「月刊漕艇」第1回発行（平成10年4月「Rowing」に改題）
	9月	第20回国民体育大会、一般WKFで明治生命が2年連続優勝（岐阜県・恵那峡）
	10月	戸田漕艇場の管理が埼玉県に移管
昭和41年（1966）	9月	第21回国民体育大会、一般WKFで明治生命が3年連続優勝、一般M1×で伊藤次男が優勝（大分県・夜明）
昭和42年（1967）	9月	第22回国民体育大会、一般M1×で伊藤次男が2年連続優勝（埼玉県・戸田）
	10月	戸田共同艇庫が（財）国立競技場に移管 朝日招待レガッタが本年限りで中止
昭和43年（1968）	10月	第1回スカル・バジテスト開催（東漕主催） 都民レガッタのKF二部制を実施 お花見レガッタ、関東レガッタ、関東大学女子選手権に4人漕ぎローボートを採用 第19回メキシコ・オリンピック大会開催（M8+、M1×）
昭和44年（1969）	9月	第24回国民体育大会に高校M1×種目を採用（フィックス種目廃止） お花見レガッタにW4+、都民レガッタに女子4人漕ぎローボートを採用 国体派遣クルー強化のため、タイムトライアルを3回実施、基準タイムを上回ったクルーに強化費を援助
昭和45年（1970）	5月	日漕創立50周年記念式典開催（渋谷・岸記念体育館）小冊子「50年のあゆみ」発行
	6月	「月刊漕艇」が新発足
	8月	高校総体にシングルスカル種目を採用（女子は56年から採用） 第1回全日本女子選手権大会開催（岐阜・川辺）（平成5年から全日本選手権大会に統合）
	11月	日漕創立50周年記念表彰式挙行
昭和46年（1971）	5月	日漕が国体調整委員会を設置（9ブロック）
	7月	世界ジュニア選手権大会にM1×で初参加（ユーゴ・ブレド）
	8月	第19回全国高校総体、MKFで本郷高校が優勝（愛媛県・鹿野川湖）
昭和47年（1972）	8月	第20回ミュンヘン・オリンピック大会開催（M2×、M1×）
昭和48年（1973）		都内小学生の乗艇練習ボート教室を開催、底辺拡大に努力

		国体参加の東京代表クルーに強化費の援助及び技術指導を実施
昭和49年(1974)	8月	高校総体に4+種目を採用(女子は63年から採用) 第1回全日本大学選手権大会開催(戸田)(荒天のため決勝レース中止)
昭和50年(1975)	5月	スカル・バッチテストを2回(第8回、第9回(10月))開催
	9月	国体に成年M4+種目を採用
昭和51年(1976)	7月	第21回モンテリオール・オリンピック大会開催(オリンピックに女子種目が加わる)
	9月	第31回国民体育大会、一般M1Xで津田眞男が優勝(佐賀県・松浦川)
	10月	第10回スカル・バッチテストを実施
昭和52年(1977)		戸田コース用のコースロープ、ブイを新調し、コース設定を円滑化
昭和53年(1978)	9月	第33回国民体育大会、成年WKFで明治生命が優勝(長野県・下諏訪町) 年間優秀クルー又は優秀選手表彰制度を設定
昭和54年(1979)	6月	第1回全日本軽量級選手権大会開催(戸田2000m)(米国ハーバード大学が参加、優勝)
	9月	第34回国民体育大会、成年MKFで電電東京が優勝、成年WKFで明治生命が2年連続優勝(宮崎県・富田浜) 水路用具の整備を実施(水路用具の格納・コースロープ整備ほか) 年間優秀クルーとして明治生命(WKF)を表彰
昭和55年(1980)	7月	関東漕艇連盟設立総会を開催、発足(関東1都6県で構成)
	9月	第35回国民体育大会、成年MKFで電電東京が2年連続優勝、成年WKFで明治生命が3年連続優勝(栃木県・戸田) デジタルストップウォッチを購入、記録の正確化を図る 荒川に戸田橋船台を新設、艇の出入の円滑化を図る 国立艇庫北側に、水路用具収納用プレハブ製物置を設置 国体ブロック予選を、関東地区大会(通称ミニ国体)に変更 年間優秀クルーとして電電東京(成年MKF)を表彰 第22回モスクワ・オリンピック大会、JOC決定により不参加
昭和56年(1981)	7月	第1回全国中学生選手権大会開催(静岡県・佐鳴湖)(平成20年から全日本中学選手権大会に変更) 読売レガッタを第31回東日本選手権大会に変更・開催
	8月	ミニ国体を東京都主管で開催(戸田) 第1回ウォーターフェア・レガッタ開催(隅田川・水の週間実行委員会主催・東漕後援)
	9月	第36回国民体育大会、成年MKFで電電東京が3連勝、成年WKFで明治生命が4連勝を達成(滋賀県・琵琶湖) 年間優秀クルーとして明治生命(成年WKF)を表彰
昭和57年(1982)	11月	アジア漕艇連盟(ARF)設立(インド・ジャイプール) アジア競技大会競漕競技開催(インド・ジャイプール)
昭和58年(1983)	12月	第1回女子エイト・レガッタ開催(東漕主管・オープン、62年まで) 第38回国民体育大会、成年M4+で東京トヨベツトが優勝(群馬県・榛名湖) 年間優秀クルーとして東京大学(8+)、関東選抜(2+)両者を表彰
昭和59年(1984)	7月	第23回ロサンゼルス・オリンピック大会開催(M4+、M1×)
	8月	中国漕艇選手団参加の全日本選手権大会を全面的に支援 年間優秀クルーとして中央大学(8+)を表彰
昭和60年(1985)	11月	第1回アジア漕艇選手権大会開催(香港) 日本ボートマン・クラブ創立 年間優秀クルーとして東京工業大学(8+)を表彰
昭和61年(1986)	9月	第10回アジア競技大会で、マツダオート東京(M2-)が優勝(韓国・ソウル) 荒川での事故防止のため関東漕艇学生連盟と共同で航路図を作成・配布 お花見レガッタ、関東新人選手権大会の優勝杯を新製 荒川・戸田橋船台に階段とスロープを設置、使用に便宜をはかる 年間優秀クルーとしてマツダオート東京(M2-)を表彰

昭和62年 (1987)	4月	早慶対校戦にシドニー・メルボルン両大学が来日 (隅田川・4000m) 第42回国民体育大会、成年M4+でマツダオート東京が優勝 (沖縄県・塩屋湾) 戸田コースの通信施設が整備され、審判・記録などレース運営が改善 年間優秀クルーとしてマツダオート東京 (M2+) を表彰
昭和63年 (1988)	4月	お花見レガッタに中学生部門のレースを新設
	9月	第43回国民体育大会、成年男子1部M2-で三菱ボートクラブが優勝 (京都府・舞鶴) 第24回ソウル・オリンピック大会開催 (M8+、M2-、M1×) マツダオート東京が参加 墨田区の中学生ボート普及計画に全面的に協力、9中学にボート部が新設され横十間川には区立艇庫が建設された 高校総体にW4+種目を採用 年間優秀クルーとしてマツダオート東京 (M2-) を表彰
平成元年 (1989)	2月	第1回エルゴメーター競技大会開催 (日漕主催・関東大会会場は戸田第1小) (第11回からマシシローイング大会に変更)
	8月	第9回隅田川ウォーターフェア・レガッタは台風のため中止 このレガッタに招待したワシントン大学を迎え、翌日エキシビジョンレースを実施 出漕艇のトップキャンパスにレーンナンバーマーク取り付けを実施 東漕の社団法人化のために検討作業に着手 中学生の指導教員を対象に技術講習会時開催、前年に引き続き中学選手権大会に男女クルーを派遣し上位入賞を達成 葛飾区におけるボート普及事業に協力、講習会・ボート教室開催に全面的協力 乗艇中の事故防止のため安全対策部を新設 年間優秀クルーとして三菱ボートクラブを表彰
平成2年 (1990)	3月	第1回全国高校選抜競漕大会開催 (静岡県・天竜)
	5月	第1回ヘンリーレガッタ・ジャパン開催 (当協会主管) (於・隅田川 第3回まで)
	9月	第45回国民体育大会、W2Xで明治生命が優勝 (福岡県・遠賀川)
平成3年 (1991)	10月	第4回アジア漕艇選手権大会開催 (埼玉県・戸田) 大会運営に協力し、併せて発艇台、距離表示板ほかの用具を整備 高校強化対策として、ダブルスカル購入校に経費の一部を助成
平成4年 (1992)	2月	「強化普及部」を「強化部」と「普及部」に分割、機能強化をはかる
	7月	第24回バルセロナ・オリンピック大会開催 (M8+、M2-、W2-)
	9月	第47回国民体育大会、成年M4+でNTT東京が優勝 (山形県・最上川)
平成5年 (1993)		墨田区中学生、葛飾区社会人のボート教室指導に協力 都内の漕艇場及び艇庫の造営適地調査を、荒川・中川・多摩川を対象に実施
平成6年 (1994)	2月	26日 社団法人東京都漕艇協会設立総会開催 (同日解散総会)
	3月	29日 「社団法人東京都漕艇協会」設立認可・発足
	9月	荒川放水路通水70周年記念・第1回「荒川レガッタ」開催 第49回国民体育大会、成年M4+でNTT東京が優勝 (愛知県・愛知池)
	10月	第12回アジア競技大会漕艇競技開催 (広島県・芦田川)
平成7年 (1995)	6月	日漕創立75周年を迎える。(11月 創立75周年記念式典を開催) NHKが全日本選手権決勝レースを全国放送 (継続実施中)
	9月	第50回国民体育大会、成年M2×で明治生命が優勝 (福島県・荻野)
平成8年 (1996)	7月	第26回アトランタ・オリンピック大会開催 (LM4-、M2-、M2×、M1×) 派遣11名中 当協会所属選手が7名出場
	9月	第51回国民体育大会、成年M2×で明治生命が2年連続優勝 (広島県・芦田川)
平成9年 (1997)	4月	関東漕艇連盟を設立、関係都府県協会の連携を強化
	9月	第52回国民体育大会、成年M4+で明治生命が優勝 (大阪府・浜寺)
	12月	「東漕ニュース」第1号を発行 (復刊)
平成10年 (1998)	2月	創立50周年を迎える
	4月	日漕が「社団法人日本ボート協会」に名称を変更

	5月	「社団法人東京都ボート協会」に名称を変更
	8月	第1回全国中学ナックル選手権大会を開催（戸田オリンピックコース） 創立50周年記念式を開催（於：岸記念体育会館・ランドマーク）
	10月	マリン・スポーツの祭典として「レインボウ・レガッタを後援（於：有明臨海副都心）
平成11年（1999）	9月	第54回国民体育大会、成年M4+で明治生命が優勝、成年W4×+で明治生命が優勝（熊本県・班蛇口湖）
	10月	第8回アジア漕艇選手権大会開催（宮城県・長沼）
平成12年（2000）		国民体育大会新種目に対応する「舵手付クオドルプル」を2艇新造 ウォーターフェア・レガッタ中学種目に「谷古杯」「網中杯」を設定 墨田、江東、葛飾、江戸川区教育委員会の後援を受けて「旧中川ボート教室」実施 荒川レガッタを墨田区「木根川橋コース」で開催（たま国民体育大会会場を想定）
	8月	世界選手権でLM4×がオリンピック、世界選手権大会を通じ日本勢として初優勝（クロアチア・ザグレブ）
	9月	第27回シドニー・オリンピック大会開催（LM2×、LM4-、LW2×）派遣8名中当協会所属選手3名出場
	10月	第55回国民体育大会、成年M4+で明治生命、成年M2×でNTT東日本、成年W1×で山内敦子が優勝。急激な河川増水のため決勝レースが中止され、決勝進出の全クルーを第1位とした。（富山県・神通川）
平成13年（2001）	5月	旧中川ボート教室を開催（江戸川区協会の全面的協力による）
	7月	江戸川区ボート協会が設立
	8月	江東区東砂3丁目地先に艇庫を建設
	9月	第56回国民体育大会、成年W4×+で明治生命が優勝（宮城県・長沼）
	10月	第8回荒川レガッタを荒川小名木川水門付近で開催 第1回谷古盾争奪戦をM8+及びW4×+の2種目で開催 三菱養和会体育館で「マシンローイング大会」を開催 三菱養和会からナックルフォア2艇の寄贈を受けた 中学種目をKFから4×+に変更実施、女子種目に4×+を追加 多摩川ボート教室を「多摩川でボートを楽しむ会」と共催で開催 競技者表彰として国民体育大会で優勝の明治生命（W4×+）を選出
平成14年（2002）	9月	第57回国民体育大会、成年W4×+で明治生命が優勝、成年M2×で明治生命が優勝（高知県・四万十川）
	10月	社会体育優良団体表彰（文部科学省設定）を受賞 競技者表彰として国民体育大会で優勝の明治生命（M2×）を選出 三菱化学からナックルフォア1艇、三菱養和会からナックルフォア2艇寄贈
平成15年（2003）	6月	第1回全日本ジュニア選手権開催（熊本県・班蛇口湖）
	7月	「アウトドア・イン・アラカワ2003」行事にマシンローイング体験コーナーを開設・後援
	9月	「旧中川地域ふれあいレガッタ」を後援
	10月	水元公園試漕会を開催
平成16年（2004）	8月	第28回アテネ・オリンピック大会開催（LM2×）、派遣4名中当協会所属選手1名出漕 競技システムの変更を含む競技事業の変更によりコスト削減を図る（各レース毎プログラムの廃止） 東京都ボート協会としてのホームページを開設
平成17年（2005）	4月	水元公園開園40周年記念「水元ボート教室」を開催
	7月	第60回国民体育大会関東ブロック大会を当協会主催で開催（於・戸田）
	8月	FISA世界ボート選手権開催（岐阜県・長良川）
	9月	第60回国民体育大会、成年M4+（NTT東日本東京）、成年M2×（明治安田生命）で優勝（岡山県）
	10月	第1回スカル選手権を開催 谷古茂盾争奪戦をマスターズレガッタに変更
平成18年（2006）		中学選手権に1×・2×種目を新設

		岩淵水門ボート教室、水元ボートフェスタへ活動を拡大
平成19年 (2007)		社団法人制度改革への対応を検討 協会の事業運営体制・財政の健全化に着手
平成20年 (2008)	8月	第29回北京・オリンピック大会開催 (LM2×、LW2×) 派遣4名中当協会所属選手1名出漕
	9月	第63回国民体育大会、成年M4+で明治安田生命が優勝 (大分県・班蛇口湖) 一般社団法人への移行手続きとして所掌官庁との事前調整実施
平成21年 (2009)	7月	世界U23ボート選手権でLM4-が銀メダル獲得 (スweep種目で初の快挙) クルー4名中3名が当協会所属選手 (チェコ・ラシセ)
	9月	第64回国民体育大会、成年M4+で明治安田生命が優勝 (新潟県・津川) 江東区の艇庫を墨田区に移築し、東京都立日本橋高等学校に寄付 平成25年東京国民体育大会に向け、開催準備・競技力向上・ジュニア育成を推進
平成22年 (2010)	5月	「一般社団法人東京都ボート協会」に移行認可、新発足
	6月	第1回お台場レガッタ、F.W.ストレンジ杯開催 (日本ボート協会主催) (東京都・お台場)
	7月	世界U23ボート選手権でLW1×が銀メダルを獲得 (女子種目で初の快挙) (ベラルーシ・ブレスト)
	9月	第65回国民体育大会、成年M4+でNTT東日本が優勝、成年M2×で明治安田生命が優勝 (千葉県・小見川)
	11月	第16回アジア競技大会、LW1×で若井江利が優勝 (中国・広州) 日本スポーツ賞を受賞
平成23年 (2011)	3月	東日本大震災により東北地方のボート施設に被害発生 ボート教室が「東大島・多摩川・水元・日本橋川・東墨田」の5拠点に拡大・実施
平成24年 (2012)	6月	「公益社団法人日本ボート協会」が発足
	7月	第30回ロンドン・オリンピック開催 (LM2×、LW2×、LW1×) 派遣5名中当協会所属選手3名出漕 第67回国民体育大会関東ブロック大会を東京国民体育大会リハーサル大会として実施 (荒川)
	9月	第67回国民体育大会、少年W1×で本所高校・高橋かほが優勝 (岐阜県・川辺)
平成25年 (2013)	9月	2020年第32回オリンピックの東京開催決定 (プエノスアイレス) 第68回東京国民体育大会開催 (11~15日) (荒川) 台風による増水のため決勝レースは中止 同着1位扱い: 少年M2× (東京選抜)、M4×+ (東京選抜); 成年M4+ (NTT東日本) W2× (明治安田生命)、W1× (首藤多佳子)、W4×+ (明治安田生命) 男女総合、女子総合とも2位となる
平成26年 (2014)	5月	ARF主催アジアカップIを全日本軽量級と併催 (埼玉県・戸田)
	10月	第69回国民体育大会成年M1× (高橋修)、成年W2× (明治安田生命)、成年M4+ (NTT東日本) で優勝男女総合3位、女子総合6位 (長崎県・形上湾)
平成27年 (2015)	3月	東京オリンピックボートコースが「海の森水上競技場」に決定
	7月	第28回ユニバーシアード大会、LW2×で富田千愛 (明治) が優勝、LM4-で日本大学優勝 (韓国・忠州)
	10月	第70回国民体育大会、女子総合3位 (滋賀県・琵琶湖 (和歌山国民体育大会県外開催))
平成28年 (2016)	3月	第27回全国高校選抜大会でM1× (江島凜斉・青井高校) が優勝
	5月	第38回全日本軽量級選手権LM2×で都立小松川高校 (青井高校・江島凜斉、小松川高校・中川大誠) が優勝
	8月	第31回リオデジャネイロ・オリンピック開催 (LM2×、LW2×) 第64回高校総体、M1×で江島凜斉 (青井高)、W4×+で小松川高校が優勝
	9月	隅田川ボート記念碑が竣工・除幕 (東京都・隅田公園)
	10月	第71回国民体育大会、成年M4+でNTT東日本が優勝、少年M2×で東京選抜 (江島・中川) が優勝 (岩手県・田瀬湖) 男女総合3位、女子総合6位 (岩手県)
平成29年 (2017)		第66回日本スポーツ賞を都立小松川高校が受賞。

	2月	FISA 臨時総会を東京で開催、オリンピック競技種目変更を決定（LM4-を廃止、W4-を採用）
	8月	戸田コースに大量の水草が発生、JARAによる刈取船を導入しての刈取作業に協力
	10月	アジアジュニア大会でJW4×（石垣優香・法政大学）が優勝 第72回国民体育大会 成年M2×優勝、
平成30年（2018）		2020東京オリンピック・パラリンピック後の日本ボート協会レガシー計画の策定に協力。
	8月	第18回アジア競技大会でLM2×（中央大学・宮浦）が優勝
	10月	第73回国民体育大会 男女総合2位、女子総合2位。
令和元年（2019）	5月	「海の森水上競技場」が竣工、完成記念レガッタを開催（6月16日）
	8月	世界ボートジュニア選手権（U19）大会（海の森水上競技場・江東区）に主管協力。組織委員会に協会関係者を派遣。 世界選手権でLW1×（富田千愛）が銀メダルを獲得、日本女子として世界選手権シニアで初の快挙（オーストリア・リンツ） 第74回国民体育大会、少年W4×+で小松川高校が優勝、荒天のため少年男女種目の準決勝1レースのみ実施し、決勝進出クルーは優勝となった。成年種目は順位つかず。（茨城県・潮来）
令和2年（2020）	3月	24日 第32回東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定（世界的な新型コロナウイルス感染拡大による） 日本ボート協会が創立100周年を迎える（記念行事は延期） 第75回国民体育大会（鹿児島県）が令和5年に延期になる（新型コロナウイルスによる）
令和3年（2021）	5月	東京オリンピック・パラリンピックアジア大陸予選（海の森水上競技場・江東区）に主管協力。組織委員会に協会関係者を派遣。M1×、LM2×のオリンピック参加が決定
	7月	23～30日 第32回2020東京オリンピック開催（海の森水上競技場・新型コロナウイルス感染防止対策のため無観客開催）
	8月	27～29日 2020東京パラリンピック開催（海の森水上競技場・新型コロナウイルス感染防止のため無観客開催） 第76回国民体育大会（三重県）の中止が決定（新型コロナウイルスによる）
令和4年（2022）	3月	第70回記念大会「お花見レガッタ」を開催（戸田オリンピックコース）
	5月	第100回記念、全日本選手権大会開催（東京・海の森）
	7月	第70回記念大会「東日本選手権」を開催（戸田オリンピックコース）
	10月	第76回国民体育大会、成年M2×でNTT東日本が優勝、成年W4×+で明治安田生命が優勝。男女総合2位、女子総合3位（栃木県・谷中湖）
	11月	U19アジアジュニア選手権で日本代表がM4×、W4×、W2×で優勝（タイ・パタヤ）
令和5年（2023）	1月	公益社団法人日本ボート協会が「公益社団法人日本ローイング協会」に名称を変更競技名も「ボート」から「ローイング」に変更となる
	4月	「一般社団法人東京都ローイング協会」に名称を変更
	5月	ワールドカップ第2戦（イタリア・パレーゼ）でM1×（荒川龍太）が銅メダルを獲得、日本勢初のオープンシングルスカルでの快挙
	8月	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（中国・成都）でLW2×が銀メダルを獲得
	11月	創立75周年記念式典開催（神宮前・日本青年館）

## 歴代会長並びに理事長（専務理事）

年	会長	理事長・専務理事
昭和23年（1948）	山田 文雄（東京大学）	東田 正信（早稲田大学）
昭和24年（1949）	山田 文雄（東京大学）	高橋 六郎（慶應義塾大学）
昭和25年（1950）	山田 文雄（東京大学）	遠藤 保蔵（日本大学）
昭和26年（1951）	岸 道三（東京大学）	谷古 茂（早稲田大学）
昭和27年（1952）	岸 道三（東京大学）	谷古 茂（早稲田大学）
昭和28年（1953）	岸 道三（東京大学）	谷古 茂（早稲田大学）
昭和29年（1954）	岸 道三（東京大学）	中川 英造（一橋大学）
昭和30年（1955）	岸 道三（東京大学）	五十子 卷三（東京大学）
昭和31年（1956）	岸 道三（東京大学）	金子 弁作（早稲田大学）
昭和32年（1957）	岸 道三（東京大学）	水之江 公英（慶應義塾大学）
昭和33年（1958）	岸 道三（東京大学）	増田 昌雄（明治大学）
昭和34年（1959）	岸 道三（東京大学）	佐賀 直光（日本大学）
昭和35年（1960）	岸 道三（東京大学）	今村 茂（東京工業大学）
昭和36年（1961）	東海林 武雄（早稲田大学）	松井 文尾（東京外国語大学）
昭和37年（1962）	東海林 武雄（早稲田大学）	米本 貴一（東京経済大学）
昭和38年（1963）	東海林 武雄（早稲田大学）	酒井 淳之（早稲田大学）
昭和39年（1964）	寺尾 一郎（一橋大）	青木 勇（明治大学）
昭和40年（1965）	畑 弘平（一橋大学）	畑中 栄一（慶應義塾大学）
昭和41年（1966）	畑 弘平（一橋大学）	畑中 栄一（慶應義塾大学）
昭和42年（1967）	畑 弘平（一橋大学）	宮越 茂夫（東京外国語大学）
昭和43年（1968）	畑 弘平（一橋大学）	宮越 茂夫（東京外国語大学）
昭和44年（1969）	畑 弘平（一橋大学）	宮越 茂夫（東京外国語大学）
昭和45年（1970）	畑 弘平（一橋大学）	輿 寛次郎（東京大学）
昭和46年（1971）	中村 清之介（東京大学）	輿 寛次郎（東京大学）
昭和47年（1972）	中村 清之介（東京大学）	輿 寛次郎（東京大学）
昭和48年（1973）	中村 清之介（東京大学）	輿 寛次郎（東京大学）
昭和49年（1974）	中村 清之介（東京大学）	輿 寛次郎（東京大学）
昭和50年（1975）	中村 清之介（東京大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和51年（1976）	中村 清之介（東京大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和52年（1977）	河西 源吉（一橋大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和53年（1978）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和54年（1979）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和55年（1980）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和56年（1981）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和57年（1982）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和58年（1983）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）
昭和59年（1984）	谷古 茂（早稲田大学）	岡本 順吉（早稲田大学）



昭和60年 (1985)	谷古 茂 (早稲田大学)	岡本 順吉 (早稲田大学)
昭和61年 (1986)	谷古 茂 (早稲田大学)	岡本 順吉 (早稲田大学)
昭和62年 (1987)	谷古 茂 (早稲田大学)	岡本 順吉 (早稲田大学)
昭和63年 (1988)	谷古 茂 (早稲田大学)	岡本 順吉 (早稲田大学)
平成元年 (1989)	谷古 茂 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成2年 (1990)	谷古 茂 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成3年 (1991)	谷古 茂 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成4年 (1992)	網中 一元 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成5年 (1993)	網中 一元 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成6年 (1994)	網中 一元 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成7年 (1995)	網中 一元 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成8年 (1996)	網中 一元 (早稲田大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成9年 (1997)	輿 寛次郎 (東京大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成10年 (1998)	輿 寛次郎 (東京大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成11年 (1999)	輿 寛次郎 (東京大学)	下平 司 (早稲田大学)
平成12年 (2000)	輿 寛次郎 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成13年 (2001)	輿 寛次郎 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成14年 (2002)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成15年 (2003)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成16年 (2004)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成17年 (2005)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成18年 (2006)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成19年 (2007)	東 晃 (東京大学)	藤野 洋 (中央大学)
平成20年 (2008)	東 晃 (東京大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成21年 (2009)	東 晃 (東京大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成22年 (2010)	藤野 洋 (中央大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成23年 (2011)	藤野 洋 (中央大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成24年 (2012)	藤野 洋 (中央大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成25年 (2013)	村田 憲彦 (日本大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成26年 (2014)	村田 憲彦 (日本大学)	檀上 敏夫 (東京大学)
平成27年 (2015)	村田 憲彦 (日本大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
平成28年 (2016)	村田 憲彦 (日本大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
平成29年 (2017)	村田 憲彦 (日本大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
平成30年 (2018)	村田 憲彦 (日本大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
令和元年 (2019)	草間 雅子 (共立女子大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
令和2年 (2020)	草間 雅子 (共立女子大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
令和3年 (2021)	芳我 孝雄 (東京経済大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
令和4年 (2022)	芳我 孝雄 (東京経済大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)
令和5年 (2023)	芳我 孝雄 (東京経済大学)	月村 繁雄 (慶應義塾大学)